

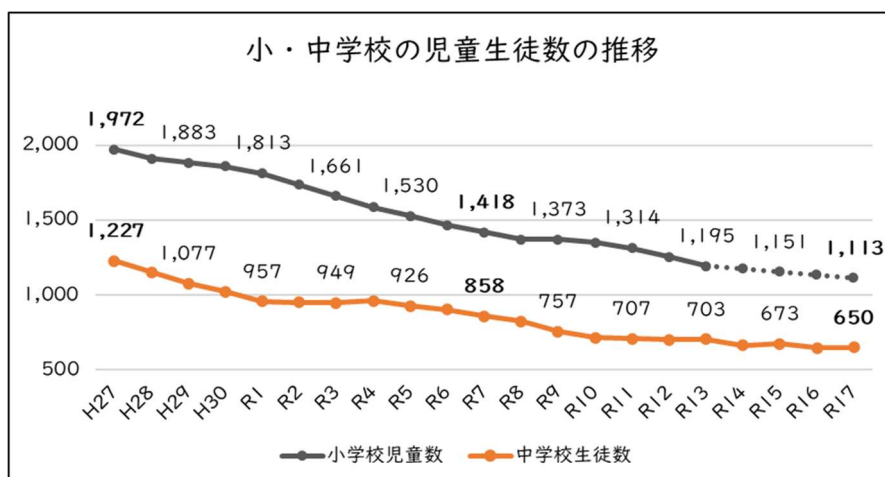
## 井原市立小・中学校の小規模化の現状について

日本の総人口は平成23年から減少局面を迎えており、少子化により小・中学校の児童生徒数も減少の一途を辿っています。井原市においても同様の傾向であり、学校規模の小規模化が進んでいます。

そうした中、学校生活の中で多様な考えや価値観に触れ、社会性や規範意識を育み、将来社会に出てからも「自分らしい人生」を歩んでいけるよう、児童生徒にとって学びやすく、楽しく通えるような環境をつくっていくことが大切だと考えています。

### 1. 市内の児童生徒数は大きく減少しています

平成27年度から令和7年度の間で、小学校児童数は28.1%(554人)減少し、中学校生徒数は30.1%(369人)減少しました。今後、令和17年度までの間で、さらに小学校児童数は21.5%(305人)、中学校生徒数は24.2%(208人)の減少が見込まれます。



※小学校児童数の令和14年度以降に関する数値は、令和7年度の実績と令和13年度の見込より減少率を算出し、推計しています。

### 2. 小規模校における教育の課題と解決

小規模校には、「一人ひとりにきめ細かい指導を行いやすい」「他学年や地域の方との交流活動がしやすい」等の良さがある一方で、課題も抱えています。

#### ○小規模校における課題

- ・児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- ・切磋琢磨する環境の中で培われる意欲や成長が引き出されにくい
- ・習熟度別学習やグループ学習など、子どもにあった多様な学習形態をとりにくい

#### ○課題を解決するための学校規模の適正化

- ・新たな人間関係を構築する力を身に付けることができる
- ・多様な考えや価値観に触れ、学び合い、切磋琢磨し合える環境になる
- ・運動会や合唱などの学校行事等、集団での活動の幅が広がる

#### 【備考】学校の規模について

小・中学校の標準規模は1校あたり学級数が「12～18学級」とされており、それを超える学校を大規模校、それ未満の学校を小規模校としています。(教育基本法施行規則)

【ご多忙のところ最後までお読みいただき、ありがとうございました。】